

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・英国、カザフスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

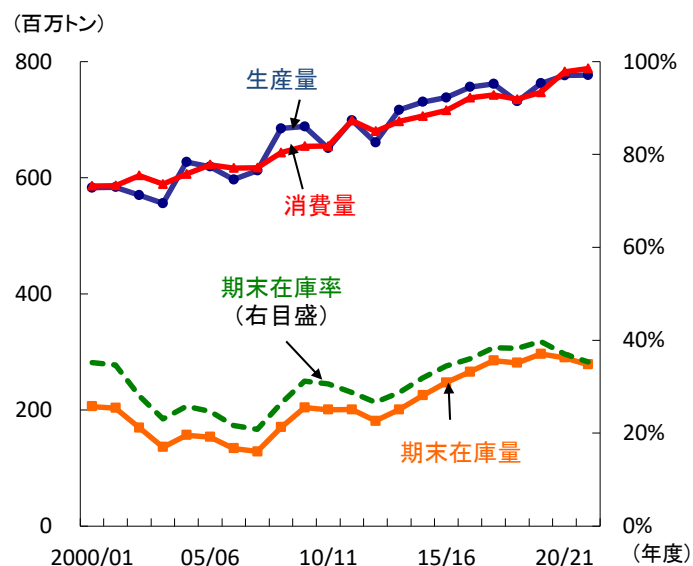
消費量 前年度比 前月比

- ・中国等で下方修正も、カナダで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・米国、ウクライナ等で下方修正も、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2022. 2. 9)をもとに農林水産省で作成

◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

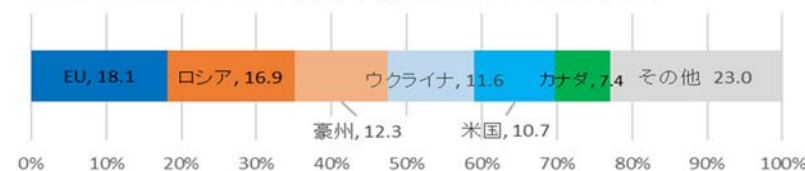
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	762.2	775.9	776.4	▲ 2.2	0.1
消 費 量	746.7	782.5	788.1	0.6	0.7
うち飼料用	139.7	157.7	160.7	1.1	1.9
輸 出 量	193.9	202.7	206.7	2.3	2.0
輸 入 量	188.4	194.8	204.8	2.2	5.1
期末在庫量	296.5	289.9	278.2	▲ 1.7	▲ 4.0
期末在庫率	39.7%	37.0%	35.3%	▲ 0.2	▲ 1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 February 2022)

○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量 (776.4百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量 (206.7百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量 (204.8百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2021/22 年度の輸出量は過去 6 年で最低

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8 百万トンの見込み。そのうち、冬小麦、春小麦、デュラム小麦の生産量は、それぞれ 34.8 百万トン(対前年度比 9.0%増)、9.0 百万トン(同 43.6%減)、1.0 百万トン(同 46.1%減)である。

同「Winter Wheat and Canola Seeding」(2022.1.12)によれば、2022/23 年度の冬小麦の播種は、11 月末にほぼ終了し、播種面積は前年度より 2 %増加の 13.9 百万ヘクタールの見込み。秋期の高水準の小麦価格で小麦の播種が促進された。冬小麦の播種面積は、2020/21 年度に 111 年で最低の播種面積に落ち込み、その後 2 年連続で上昇した。品種別播種面積は、ハード・レッド・ウインター(HRW)が 9.6 百万ヘクタール(対前年度比 1 %増)、ソフト・レッド・ウインター(SRW)が 2.9 百万ヘクタール(同 6 %増)、ホワイト・ウインターが 1.4 百万ヘクタール(同 2 %増)。

生育状況は、2 月 8 日現在、冬小麦生産地の 71%で干ばつとなっており、1 月より悪化している。冬の低温が続く期間に定温を維持する積雪がないと、作物が凍結被害を受ける可能性がある。しかしながら、冬小麦にとっては、冬期の生育条件が生産量の主要な決定要素ではなく、春期の生育条件が単収に大きな影響を与える傾向がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、消費量は、前月予測からデュラム小麦の需要の減少や種子用小麦の需要の減少から 0.1 百万トン下方修正されたが、前月を 1.2%上回る 30.8 百万トン。

輸出量は、HRW やホワイト小麦の輸出量の減少により前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、前年度に比べ 18.3%減少の 22.1 百万トンの見込み。春小麦の干ばつによる減産により、過去 6 年間で最低の水準となっている。中でもハード・レッド・スプリングは過去 30 年間で最低の輸出数量が見込まれている。なお、米国産小麦の価格高騰により、中国は史上最高の豊作となった豪州産に輸入先を切り替えている。1 月の輸出先国(輸出検証高)は、日本が 0.3 百万トン(16%)、メキシコが 0.3 百万トン(15%)、フィリピンが 0.2 百万トン(12%)の順。

2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測より 0.5 百万トン上方修正され 17.6 百万トンとなるものの、2013/14 年度以降最小の見込み。

小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位: 百万トン)

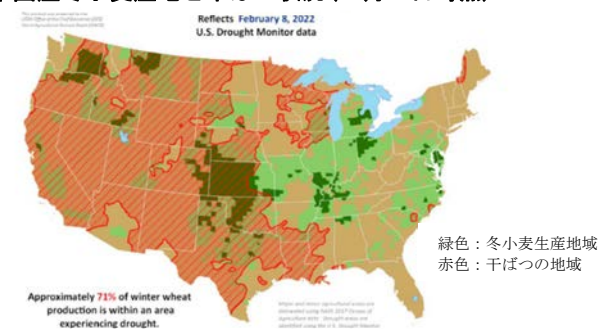
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	-	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	30.8	▲ 0.1	1.2
うち飼料用	2.6	2.6	3.0	-	15.4
輸 出 量	26.4	27.0	22.1	▲ 0.4	▲ 18.3
輸 入 量	2.8	2.7	2.7	-	▲ 0.4
期末在庫量	28.0	23.0	17.6	0.5	▲ 23.3
期末在庫率	49.3%	40.0%	33.3%	1.3	▲ 6.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	-	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	-	▲ 10.8

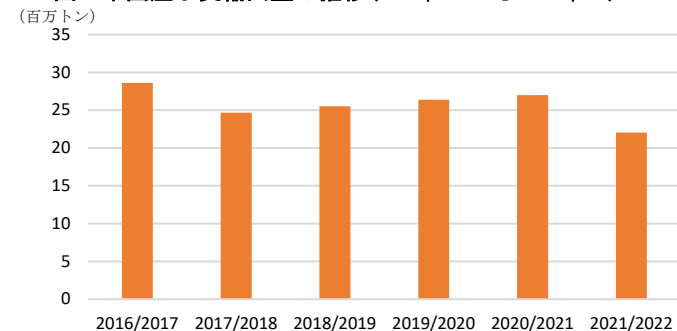
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 February 2022)

図 米国産冬小麦産地と干ばつ状況(2 月 8 日時点)



資料: USDA「Wheat outlook:February 2022」(2022.2.11)

図 米国産小麦輸出量の推移(2016/17 から 2021/22)



資料: USDA「PS&D」(2022.2.11)をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2021/22 年度末在庫は減産により過去最低の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 21.7 百万トンとカナダ西部の干ばつの影響を受け前年度に比べ 38.5%減少し、2008/09 年度以降最低水準。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2022.2.18)によれば、生産量は前月予測からの変更はなく 21.7 百万トンで、デュラム小麦は前年度から 60%減少の 2.7 百万トン、普通小麦は前年度から 34%減少の 19.0 百万トンの見込み。

また、AAFC によれば、2022/23 年度の播種面積は、前年度(9.49 百万ヘクタール)から 10.4%増加の 10.05 百万ヘクタール。生産量は前年度(21.7 百万トン)から 43.9%増加の 31.2 百万トンとなる見込み。そのうち、デュラム小麦は高水準な価格や、堅調な世界の需要等から播種面積は前年度から 9%増加の 2.45 百万ヘクタール。干ばつで減少した単収が回復すると生産量は前年度(2.7 百万トン)の約 2 倍の 5.5 百万トンと最近 5 年平均並となる見込み。また、普通小麦も高水準な価格や、在庫量の逼迫から、播種面積は前年度から 5%増加し 7.60 百万ヘクタールの見込み。

なお、普通小麦のうち、春小麦の播種面積は前年度から 6%増加し 7.05 百万ヘクタール、冬小麦は前年度から 1%増加し 0.55 百万ヘクタールの見込み。

また、単収が 3.44 トン/ヘクタールと干ばつ被害被害を受けた 2021/22 年度から回復する見通しで、生産量は前年度から 35.0%増加し 25.6 百万トンと最近 5 年平均を上回る見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 15.2 百万トンと、2005/06 年度以降最低の見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、12 月の輸出量は普通小麦が 0.7 百万トン、デュラム小麦は 0.1 百万トンの計 0.8 百万トンで、輸出先国は、普通小麦は中国(16.3%)、フィリピン (10.8%)、コロンビア(10.7%)、デュラム小麦はイタリア(27.5%)、日本(19.1%)、ペルー (16.8%)の順。

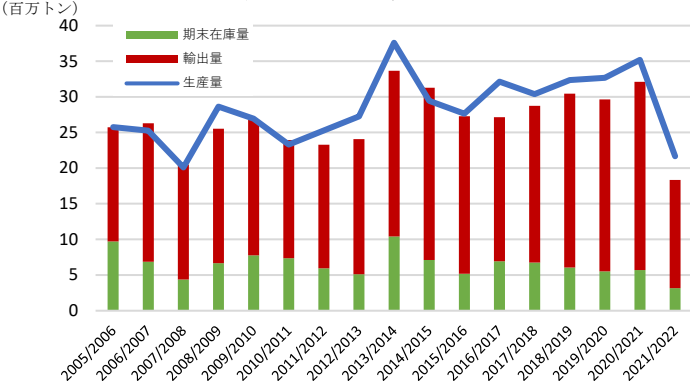
USDA によれば、期末在庫量は 3.1 百万トンと対前年度比 44.8%減、1960 年以降で最低の見込み。2021/22 年度の実産量の大幅な減少が要因となっている。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.7	35.2	21.7	(21.7)	-	▲ 38.5
消 費 量	9.8	9.1	9.6	(8.2)	1.7	5.4
うち飼料用	4.6	4.2	4.5	(4.1)	1.7	8.2
輸 出 量	24.1	26.4	15.2	(15.4)	0.2	▲ 42.5
輸 入 量	0.7	0.6	0.6	(0.2)	▲ 0.1	9.1
期末在庫量	5.5	5.7	3.1	(4.0)	▲ 2.0	▲ 44.8
期末在庫率	16.2%	16.0%	12.7%	(17.0%)	▲ 9.8	▲ 3.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.25	(9.25)	-	▲ 7.7
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.34	(2.34)	-	▲ 33.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 February 2022)

図 カナダ産小麦の生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2022.2.9)をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2021年12月)
〈普通小麦〉 〈デュラム小麦〉

	国名	普通小麦		国名	デュラム小麦	
		輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)		輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	11.4	16.3	イタリア	2.8	27.5
2	フィリピン	7.5	10.8	日本	1.9	19.1
3	コロンビア	7.5	10.7	ペルー	1.7	16.8
4	英国	6.4	9.2	米国	1.4	14.2
5	エクアドル	6.4	9.1	ナイジェリア	1.3	12.8
6	その他	30.6	43.9	その他	1.0	9.7
計		69.7	100.0	計	10.0	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。
注2: 普通小麦の品種はNO. 1-3 Canada Western Red Spring, No. 2 Canada Prairie Spring, No. 1 Canada Western

< 豪州 > 2021/22 年度の生産量、輸出量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の 34.0 百万トンの見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2021.11.30)によれば、2021/22 年度の実産量は 2 年連続して過去最高を更新し、34.4 百万トンの見込み。主要生産州別の生産量は、ニューサウスウェールズ (NSW) 州では、生産量は前年度より 7 %減少するものの、5 年平均の約 2 倍の 12.2 百万トンの見込み。西オーストラリア(WA)州は、前年度より 23%増加の 11.7 百万トンと史上最高の見込み。なお、GIWA(西オーストラリア州穀物協会)の 2 月レポート(2022.2.11)によれば、生産量は 12.9 百万トンと対前年度比 4 割増の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、25.5 百万トンと、2 年続きの豊作から史上最高となる見込み。

豪州統計局によれば、12 月の輸出量は、前月(1.6 百万トン)に比べ 2.2 百万トンと増加。輸出先国は、中国(32%)、インドネシア(10%)、日本(8%)の順。また、2021 年計の輸出先国はインドネシア(19%)、ベトナム(12%)、中国(12%)で、輸出先国の上位はアジア向けとなっている。12 月の中国向け輸出の割合は 32%とここ数か月、大幅に増加している。現地情報会社によれば、中国の豪州産小麦への輸入需要は、北米の減産と、中国が他地域産に比べ距離的に近い豪州産を選択し原油高騰により増大した輸送コストを抑制するためと見られている。また、北米の高品質小麦の減産により豪州産の需要が高まっているが、豪州産小麦は一部で品質が低下しており輸出機会は限定的と見られている。一方、インドネシア、フィリピン、ベトナムでは、飼料用小麦向けの低品質小麦の需要が高いが、地理的に近い豪州からの輸送コストが低く競争力が強い。なお、豪州産小麦は価格競争力があるものの、アフリカ、南アジア向け輸出は、地理的な要因から黒海周辺諸国や欧州諸国の輸出、インドの豊作もあり輸出機会は限定的である。

本年度は収穫量が多いため、サプライチェーンの随所で物流問題が生じている模様。また、カナダ、米国の生産量の減少に伴う豪州産穀物への需要集中で港湾能力が追いつかない状況が続いており、輸出コストの上昇にも注視が必要である。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	14.5	33.3	34.0 (35.5)	-	2.1	
消 費 量	8.0	8.0	8.5 (9.5)	-	6.3	
うち飼料用	4.5	4.5	5.0 (5.7)	-	11.1	
輸 出 量	9.1	23.9	25.5 (24.0)	-	6.9	
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	2.7	4.3	4.5 (6.6)	-	4.6	
期末在庫率	15.6%	13.6%	13.3% (19.7%)	-	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.86	12.90	13.10 (13.0)	-	1.6	
単収(t/ha)	1.47	2.58	2.60 (2.47)	-	0.8	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

写真 収穫の進む豪州(NSW 州)の圃場(2022. 1. 27)



1 月中旬に大雨が降り、収穫作業を中断していたため、遅れてこの日収穫作業が行われた。
品質は、降雨過多により飼料用途の GP (General Purpose) となった。

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年12月			2021年1月～12月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
中国	71.5	32.2	インドネシア	493.4	19.3
インドネシア	22.7	10.2	ベトナム	302.6	11.8
日本	17.4	7.8	中国	294.3	11.5
マレーシア	17.3	7.8	フィリピン	199.0	7.8
ベトナム	12.7	5.7	日本	121.6	4.8
その他	80.4	36.2	その他	1146.3	44.8
合計	222.0	100.0	合計	2,557.3	100.0

資料: 豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU27+英国 > 2022/23 年度の冬小麦はおおむね良好に越冬

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2022.1.17)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、139.3 百万トン。

このうち、普通小麦は前月に比べわずかに下方修正され、131.6 百万トンとなったが、前年度を 10.3%上回る見込み。国別には、イタリア等でわずかに下方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べ上方修正され 7.7 百万トンとなり、前年度を 5.0%上回る見込み。国別には、イタリア等で上方修正された。また、英国環境・食料・農村地域省(DEFRA)「Farming Statistics – final crop areas, yields, livestock populations and agricultural workforce at 1 June 2021」(2021. 12.16)によれば、英国の 2021/22 年度の実生産量は、14.0 百万トンの見込み。

この結果、EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 153.3 百万トンとなる見込み。

1 月は地域全体で乾燥した気候が続いたが、イングランドとフランス東部の休眠中の小麦は、土壌水分量が十分であり、良好な状態で越冬しているとみられる。スノーカバー(土壌を保温する効果がある積雪)は大陸東部で見られるのみであるが、冬枯れの可能性のある夜間最低気温を上回っているため、冬枯れ懸念は発生していない。イベリア半島等の南部では、1 月半ばに冬作物が半休眠期から生育期に入る地域も見られ、一部で乾燥懸念がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の EU と英国の消費量の計は前月予測から変更なく 123.0 百万トンの見込み。輸出量は、前月予測からわずかに上方修正され、38.2 百万トンの見込み。輸出税の賦課や 2 月からの輸出枠設定によるロシアの輸出量の減少に伴い、ロシアの主要輸出国であるエジプト市場等では価格競争力のある EU が輸出を伸ばすと見られている。また、フランスでは、2021 年 5 月～9 月まで実績のなかった中国向けの輸出が 10 月から再開されている。

2 月 8 日現在の EU の輸出価格 (FOB) は、主要な輸出先であったアルジェリアが黒海地域に輸入先を変更した影響を受け、先月から 9 ドル/トン下落し 310 ドル/トンとなった。減産となった米国やカナダと比べて安価となっている。(右図)

USDA によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の期末在庫量は 1999/00 年度以降最低の 9.9 百万トンの見込み。

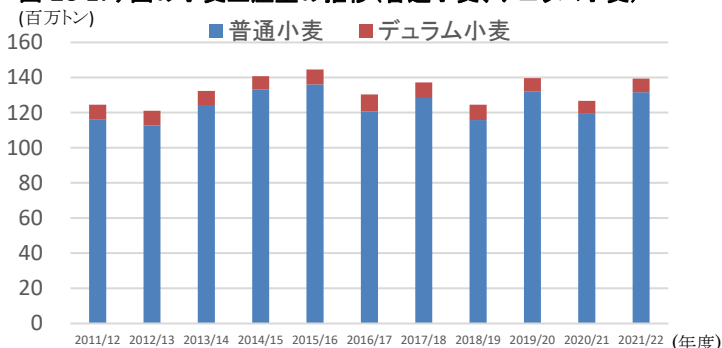
小麦－EU27+英国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.4	136.6	152.9 (152.0)	▲ 0.3	11.9
消費量	122.5	118.2	123.0 (121.0)	-	4.0
うち飼料用	53.2	48.5	52.9 (48.8)	-	9.1
輸 出 量	41.4	30.2	38.2 (35.3)	0.0	26.5
輸 入 量	7.3	8.6	7.5 (7.2)	0.3	▲ 12.8
期末在庫量	15.6	12.4	11.6 (14.0)	-	▲ 6.1
期末在庫率	9.5%	8.3%	7.2% (9.0%)	▲ 0.1	▲ 1.1

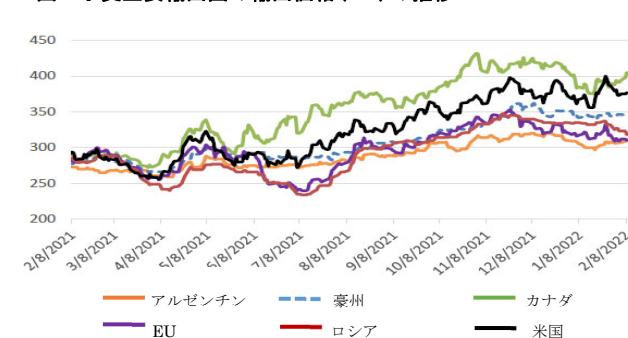
(参考)
収穫面積(百万ha) 26.16 24.36 25.93 (25.49)
単収(t/ha) 5.90 5.61 5.90 (5.96)
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)
表内及び () 内のデータは EU27 ヶ国+英国のデータ

図 EU27 ヶ国の小麦生産量の推移(普通小麦、デュラム小麦)



資料: 欧州委員会「EU Cereals Production, Area and Yield(2021.1.27)」をもとに農林水産省で作成

図 小麦主要輸出国の輸出価格 (FOB) の推移



資料: USDA「Grain World Markets and Trade(2022.2.9)」

＜ 中国 ＞ 2021/22 年度の輸入量は前年度に比べ 23.3%減少する見込み

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.2.9)によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測から変更なく 136.9 百万トンで、史上最高の見込み。作期別には、冬小麦は 129.2 百万トン、春小麦は 7.7 百万トン。

中国中央气象台(2022.2.5)によれば、2022/23年度の冬小麦は、多くの地域で越冬期を迎えている。生育条件は、1 月に 3 度の大規模なみぞれにより土壌水分が補給された。また、南部の四川省、雲南省、貴州省の大部分では分げつ期から節間伸長期に入っており、一部は穂孕みから開花期に入っている。南部では平年より降水量が 5～9 割多く、生育は良好に推移している。

中国農業農村部は、食料安全保障の観点から、食糧生産量を 6.5 億トン以上に安定させる目標を定めた。そのうち、小麦は 2025 年までに単位面積当たりの収量を引き上げることにより、生産量を 1.4 億トン以上にするとしている。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の輸入量は前月予測からの変更はなく 8.0 百万トンで、前年度に比べ 23.3%減少する見込み。中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 12 月の小麦輸入量は、前年(8.2 百万トン)を 19.2%上回る 9.7 百万トン。同期間の輸入量は 7 月から 10 月にかけて減少傾向であったが、11 月以降に増加に転じた。2021 年の輸入先国は、豪州 (28.1%)、米国(28.1%)、カナダ(26.1%)の順で、12 月に輸入量が増加した豪州産がわずかに米国産を上回った。なお、この 3 カ国で全体の 82.3%を占めている。また、10 月よりフランス産の輸入が再開されている。また、本年 2 月 4 日には、ロシア産小麦の輸入に関する植物検疫上の地域限定について、その撤廃に合意した(→詳細は注目情報参照)。

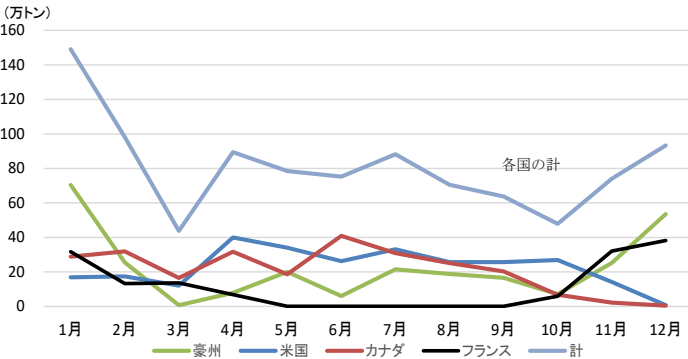
農業農村部「農産品供需形勢分析月報12月号」によれば、12月上旬は、市場における売り惜しみ心理が比較的強く、12月中旬になっても、製粉業者の強い需要に支えられ、国内小麦価格は引き続き上昇した。しかし、12月下旬に入ると、1 月の政府備蓄小麦の競売の再開による需給の緩和と見通しが重しとなり、製粉企業の買付価格は小幅に下落している。春節前の価格の上昇余地は限られていると思われる。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.6	134.3	137.0	(137.1)	-	2.0
消費量	126.0	150.0	147.5	(146.5)	▲ 1.0	▲ 1.7
うち飼料用	19.0	40.0	35.0	(33.4)	▲ 1.0	▲ 12.5
輸 出 量	1.1	0.8	0.9	(1.3)	-	18.4
輸 入 量	5.4	10.6	9.5	(10.6)	-	▲ 10.5
期末在庫量	150.0	144.1	142.2	(128.3)	1.0	▲ 1.4
期末在庫率	118.1%	95.6%	95.8%	(86.8%)	1.3	0.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.57	(23.8)	-	0.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.81	(5.76)	-	1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

図 中国の小麦輸入先国(上位4ヶ国)の推移(2021年1月～同年12月)



資料：海関統計を農林水産省で加工

表 中国の小麦輸入先国(2021年12月、2021年1月～2021年12月、2020年1月～2020年12月)

国 名	2022年12月		2021年1月～2021年12月		2020年1月～2020年12月	
	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
豪州	53.6	57.4	273.4	28.1	229.7	28.2
フランス	38.2	40.9	272.6	28.1	238.3	29.2
米国	0.7	0.7	254.0	26.1	178.4	21.9
カナダ	0.4	0.4	141.6	14.6	109.0	13.4
カザフスタン	0.4	0.4	18.7	1.9	33.3	4.1
その他	0.2	0.2	6.6	0.7	26.4	3.2
計	93.3	100.0	971.8	100	815.2	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ ロシア政府は輸出関税を累進式にし、輸出枠 800 万トンを設定

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量(クリミア地域分を含まない)は、前月予測からの変更はなく、75.5 百万トンと前年度に比べ 11.5%減の見込み。

ロシア農業省の速報値によれば、2022/23 年度の冬穀物の播種面積は、12 月 17 日時点で 18.4 百万ヘクタール(前年度比 4.4%減)。ロシア気象センターによれば、冬小麦は越冬期に入っている。1 月は、気温が平年より高くなったものの、スノーカバーが保持されており影響はなかった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から変更なく 35.0 百万トンの見込み。ロシア産小麦は、エジプト市場でウクライナ産や EU 産に代替される一方、2021 年に不作となったトルコ、イラン向けの輸出量は増加した。

なお、可変輸出関税額は、前年 7 月から 8 月にかけて低下し輸出を下支えしたが、8 月末から上昇を続け、12 月中旬以降 90 ドル/トンを超えた。その後 6 週連続して下落しているが 90 ドル台を維持している。輸出量は、前年 8 月から 9 月にかけて 5.0 百万トン台まで増加したものの、輸出税の上昇に伴い、10 月には 2.0 百万トン台に減少した。その後、11 月に輸出量は再び増加し 3.2 百万トン、12 月は 3.0 百万トンとなった。

ロシア政府は 1 月 31 日以降、穀物輸出関税を 3 段階の累進式に変更。算定方式は次の通り。2 月 15 日以降は枠内に適用される。

①第 1 段階：指標価格(※)が 1 トン当たり 200 ドルを超え 375 ドルまでの場合。

指標価格と 200 ドルの差に 70%の関税率を適用し税額を算出。

②第 2 段階：同価格が 1 トン当たり 375 ドルを超え 400 ドルまでの場合。

指標価格と 375 ドルの差に 80%の税率を適用した税額を①の税額に加算。

③第 3 段階は、同価格が 1 トン当たり 400 ドルを超えた場合。

指標価格と 400 ドルの差に 90%の税率を適用した税額を①及び②の税額に加算。

同時に、2022 年 2 月 15 日から 6 月 30 日までの小麦の輸出枠を 800 万トンとし、とうもろこし、ライ麦、大麦の輸出枠計 300 万トンとあわせて、2 月 8 日には 206 業者に配分した。なお、前年と同様にユーラシア経済同盟加盟国等への輸出は対象外で、今後、輸出枠の設定は毎年実施

小麦－ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	75.5 (75.0)	-	▲ 11.5
消費量	40.0	42.5	41.8 (42.4)	-	▲ 1.8
うち飼料用	17.0	19.0	18.5 (18.0)	-	▲ 2.6
輸 出 量	34.5	39.1	35.0 (33.4)	-	▲ 10.5
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.2)	-	25.0
期末在庫量	7.2	11.4	10.6 (12.2)	-	▲ 6.6
期末在庫率	9.7%	13.9%	13.9% (16.1%)	-	▲ 0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	27.60 (28.0)	-	▲ 3.8
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.74 (2.68)	-	▲ 8.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

図 ロシア産小麦の可変輸出関税額の推移(6月2日から1月19日)

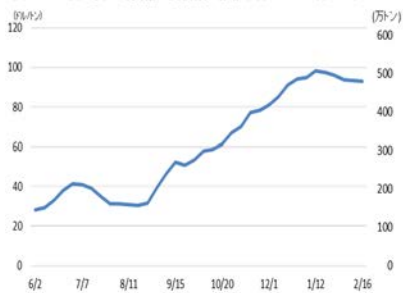
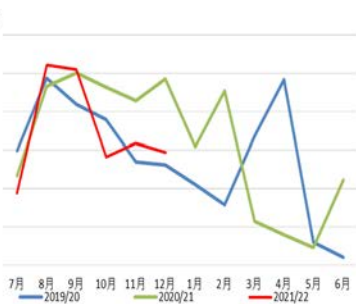


図 ロシアの最近3か年の月別小麦輸出量の推移



資料：ロシア農業省の公表資料をもとに農林水産省で作成 資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省

新方式の穀物輸出関税額の具体例

例1 小麦の指標価格が390^円/tの場合
第1段階分が122.5^円/t。(375-200)*0.7=122.5
第2段階分が12^円/t。(390-375)*0.8=12
の合計で輸出関税額は134.5^円/tとなる。
(現行の算定方式なら133^円/t)。

例2 小麦の指標価格が420^円/tの場合
第1段階分が122.5^円/t。
第2段階分が20^円/t。
第3段階分が18^円/t。(420-400)*0.9=18
の合計で、輸出関税額は160.5^円/tとなる
(現行の算定方式なら154^円/t)。

するとされている。また、2月4日、植物検疫上、いままでアルタイ地域など7地域産に限定されていたロシア産小麦・大麦の中国向け輸出について、地域限定の解除に合意した。これにより、中国向けに主産地の欧州地域の小麦の輸出が可能となった。(→詳細は注目情報参照)

※指標価格：ロシア連邦農業省が毎週金曜日に前週のFOB(ノボロシスク港)価格の平均値として算出し、輸出関税額とともに公表

ロシアの小麦輸出と輸出規制の影響<USDA 「Wheat outlook」(2022.2.11)>

2000年代以降の小麦の輸出増加は、北アフリカやアジアを中心とした途上国の人口増加や所得増加に伴うものであり、国際市場におけるロシア産小麦のシェアは2017/18年度にピークの22%に達した。その後、天候的な問題による生産量の減少と国内価格抑制のための輸出規制により、最近のシェアは低下している。

ロシア政府が2007年以降これまで7回にわたり実行した輸出規制は、国際価格の上昇の助長や、生産者のインセンティブの低下を招いており、このような措置はむしろ状況を悪化させる場合もあると指摘されている。現在の輸出規制においては、毎年2月15日から6月30日に導入される輸出枠の影響で、今後は輸出枠のない穀物年度(7月～6月)の前半に輸出が集中する可能性がある」と指摘されている。

可変輸出関税制度は、国際価格の上昇を招く可能性がある他、ロシア産小麦の価格競争力及び価格設定の柔軟性を損なうため、小麦輸入国は他の国に供給先をシフトしている。例えば、エジプトでは、2021/22年度、ロシア産小麦の買付が減少してウクライナ産とルーマニア産が増加している。トルコでは、2021年の輸入は、ロシア産はそれほど減少していないが、ウクライナ産は前年比2倍以上のペースとなっている。

(参考) ウクライナの小麦需給表

(2021/22年度のウクライナの小麦は史上最高の豊作)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	29.2	25.4	33.0 (33.0)	-	29.8
消 費 量	8.3	8.7	8.6 (8.6)	▲ 0.2	▲ 1.1
うち飼料用	2.2	2.6	2.5 (2.4)	▲ 0.2	▲ 3.8
輸 出 量	21.0	16.9	24.0 (24.5)	▲ 0.2	42.4
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 23.1
期末在庫量	1.5	1.5	2.0 (1.5)	0.4	33.1
期末在庫率	5.1%	5.9%	6.2% (4.5%)	1.3	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.02	6.85	7.40 (-)	-	8.0
単収(t/ha)	4.16	3.71	4.46 (-)	-	20.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・フィリピン等で上方修正も、ブラジル、パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

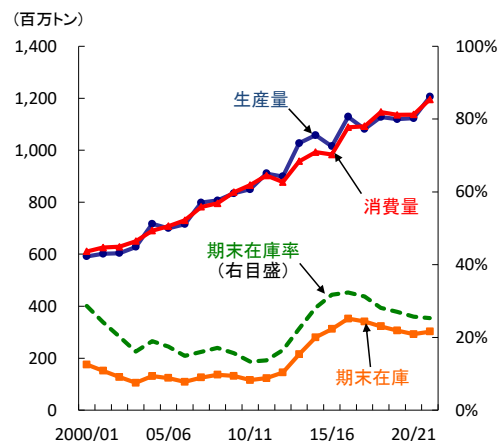
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・イラン、カナダ等で上方修正も、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.2.9）をもとに農林水産省にて作成

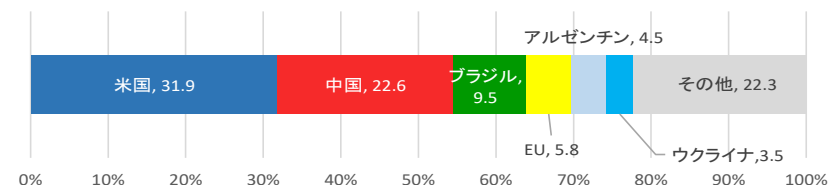
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

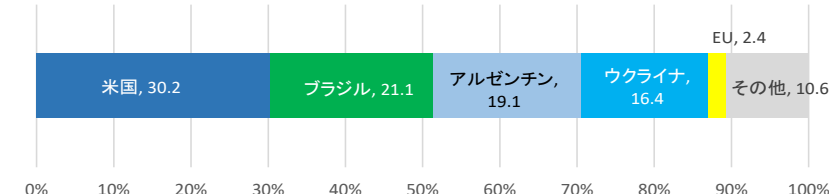
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,119.6	1,123.1	1,205.4	▲ 1.6	7.3
消 費 量	1,135.6	1,137.4	1,195.2	▲ 0.9	5.1
うち飼料用	715.7	721.5	751.9	0.8	4.2
輸 出 量	172.3	180.8	203.7	▲ 0.5	12.7
輸 入 量	167.8	185.8	188.2	1.4	1.3
期末在庫量	306.3	292.1	302.2	▲ 0.8	3.5
期末在庫率	27.0%	25.7%	25.3%	▲ 0.1	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 February 2022)

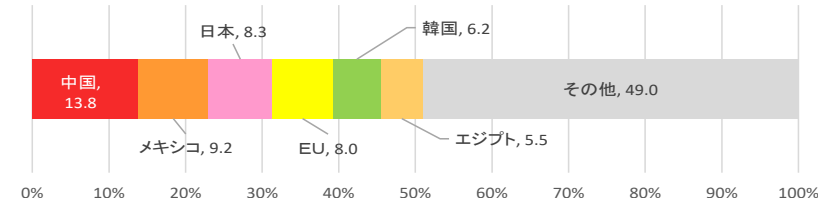
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,205.4百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(203.7百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(188.2百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 生産量史上第2位、エタノール用需要増、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の単収となったことから前年度より7.1%増の383.9百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第2位の見込み。前年11月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用消費量の増加に牽引され、前年度より2.8%増の315.2百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より11.9%減の61.6百万トンの見込み。前年度の輸出は中国向け大量輸出が中心であったが、2021/22年度は輸出先が広がり、特にメキシコとカナダの北米市場向けが拡大している。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～2月3日)は、5.4百万トンであり、内訳はメキシコ(1.6百万トン)、中国(1.4百万トン)、日本(1.2百万トン)、コロンビア(0.5百万トン)の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より24.7%増の39.1百万トンの見込み。なお、期末在庫率は10.4%で依然として低水準の見込み。

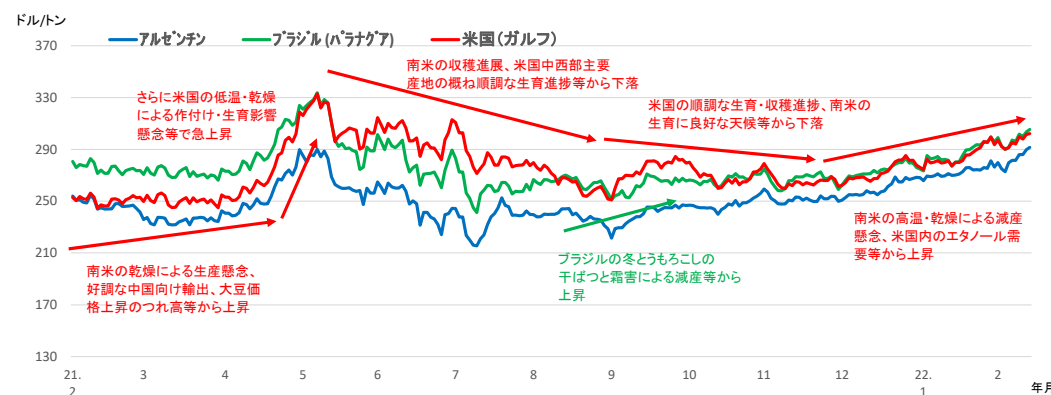
とうもろこし－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.0	358.5	383.9	－	7.1
消費量	309.6	306.5	315.2	－	2.8
うち飼料用	149.9	142.3	143.5	－	0.9
エタノール用等	123.4	127.7	135.3	－	5.9
輸 出 量	45.1	69.9	61.6	－	▲ 11.9
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	－	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	39.1	－	24.7
期末在庫率	13.7%	8.3%	10.4%	－	2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.56	－	3.8
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.11	－	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



＜ ブラジル ＞ 南部の高温・乾燥で単収下方修正も、生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前年11月以降の南部の主要産地（パラナ州、リオ・グランデ・ド・スール州等）の高温・乾燥が1月も継続した影響で夏とうもろこしの単収がさらに下方修正されたことから前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、大豆収穫後、作付けされる冬とうもろこしの生産増見通しにより前年度より31.0%増の114.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2022.2.10）によれば、収穫中の2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、南部産地を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け前月予測から0.4百万トン下方修正され、前年度比1.2%減の24.4百万トンの見込み。一方、冬とうもろこしの生産量は、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ41.0%増の87.9百万トンが見込まれ、合計では前年度比29.0%増の112.3百万トンで史上最高の見込み。（P.22 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。

南部の主産地では1月下旬に降雨があったものの、これまでの高温・乾燥の影響を改善するには遅すぎた。一方、2月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、この地域の夏とうもろこしの成熟及び冬とうもろこしの初期生育は順調である。夏とうもろこしは、南部のパラナ州で2月7日現在、収穫進捗率は19%。南部のリオ・グランデ・ド・スール州で2月10日現在、収穫進捗率は50%。中西部のマット・グロソ州では例年より早い大豆の収穫により、2月11日現在、冬とうもろこしの作付進捗率は57%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から0.5百万トン下方修正されたものの、依然として飼料用消費の増加に伴い、前年度より3.6%増の72.5百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、大幅減産となった前年度より2.1倍の43.0百万トンで史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1月の輸出量は2.7百万トンで、前年同期（2.3百万トン）と比べ16.5%増となっている。内訳は、1位がエジプト60万トン、2位がイラン50万トン。

とうもろこし－ブラジル

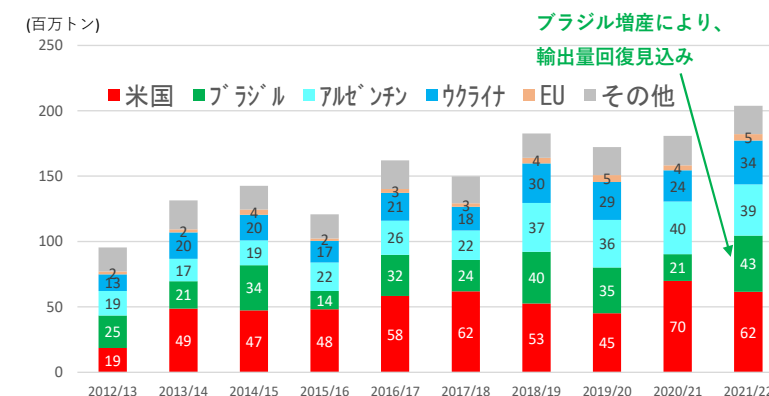
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	87.0	114.0	(112.9)	▲ 1.0	31.0
消 費 量	68.5	70.0	72.5	(74.1)	▲ 0.5	3.6
うち飼料用	58.5	59.0	61.5	(53.8)	▲ 0.5	4.2
輸 出 量	35.1	20.5	43.0	(39.0)	-	109.8
輸 入 量	1.7	3.0	2.0	(0.5)	-	▲ 33.3
期末在庫量	5.3	4.8	5.3	(6.4)	▲ 0.9	10.4
期末在庫率	5.1%	5.3%	4.6%	(5.7%)	▲ 0.8	▲ 0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.90	20.80	(20.94)	-	4.5
単収(t/ha)	5.51	4.37	5.48	(5.39)	▲ 0.05	25.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2022.2.9）のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 高温・乾燥も、生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 4.9%増の 54.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.2.17）によれば、収穫進捗率は 1.7%。作柄は良から並みが 74%で前週（72%）から改善した。遅植えとうもろこしの作柄は今後数週間の降雨が重要。ラニーニャ現象に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 3.7%増の 14.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 3.0%減の 39.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～12 月の輸出量は 40.1 百万トンで、前年同期（37.0 百万トン）より 8.3%増。内訳は、1 位がベトナム 6.8 百万トン、2 位が韓国 4.9 百万トン、3 位がエジプト 3.1 百万トン。前年 7 月 26 日に発令された 180 日間のパラナ川の渇水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げ、その後継続している。

2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧漁業大臣が 2021/22 年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。同省プレスによれば、とうもろこしの輸出上限数量は 4,160 万トンで国内需給に影響しない量としている。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	51.5	54.0	(61.0)	-	4.9
消 費 量	13.5	13.5	14.0	(21.2)	-	3.7
うち飼料用	9.5	9.5	10.0	(16.3)	-	5.3
輸 出 量	36.3	40.2	39.0	(37.0)	-	▲ 3.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.4	2.4	(8.0)	0.3	71.1
期末在庫率	7.3%	2.6%	4.6%	(13.7%)	0.6	1.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.50	6.80	(8.30)	-	4.6
単収(t/ha)	8.10	7.92	7.94	(7.35)	-	0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの生育風景 (2月5日撮影)

前年 12 月から 1 月前半に水ストレスが発生した。
現在は成熟期で、収穫は 3 月末の予定。



< 中国 > 生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆から収益性の良いとうもろこしの作付けにシフトしたことで収穫面積が増加したことから、前年度より4.6%増の272.6百万トンと史上最高の見込み。前年11月上旬時点で、収穫は終了。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.9%減の26.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、29.5百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～12月の輸入量は28.4百万トンで、前年同期の2.5倍。内訳は、米国産19.8百万トン（70%）、ウクライナ産8.2百万トン（29%）で、前年はウクライナ産が56%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加した。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2021年12月号」によると、12月の国内流通価格は、東北地区で市場への出荷が継続的に増加したこと国内とうもろこし市場の供給圧力が上昇し、2,820 元/トンと前月（2,880 元/トン）から低下した。また、12月の外国産価格は2,480 元/トンと前月（2,560 元/トン）から下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

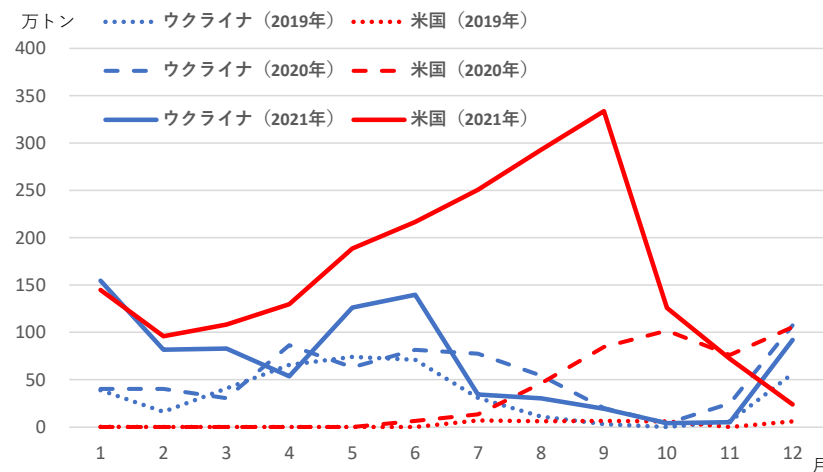
とうもろこしー中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	260.8	260.7	272.6 (272.6)	-	4.6	
消 費 量	278.0	285.0	294.0 (293.2)	-	3.2	
うち飼料用	193.0	203.0	214.0 (191.0)	-	5.4	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	7.6	29.5	26.0 (16.5)	-	▲ 11.9	
期末在庫量	200.5	205.7	210.2 (190.2)	-	2.2	
期末在庫率	72.1%	72.2%	71.5% (64.8%)	-	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	43.32 (43.32)	-	5.0	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.29 (6.29)	-	▲ 0.5	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

・パキスタン等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

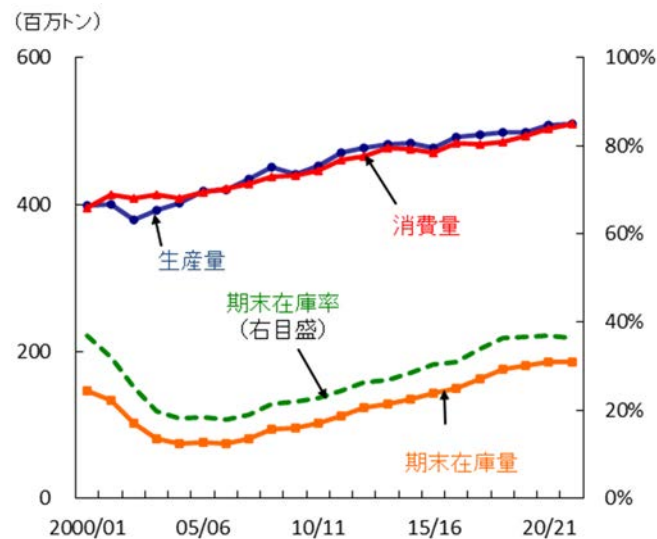
消費量 前年度比 前月比

・ナイジェリア等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2022.2.9）をもとに農林水産省にて作成

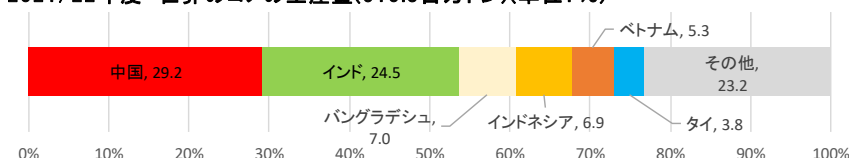
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

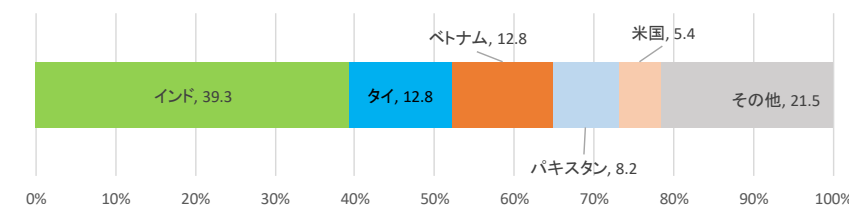
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	498.9	507.5	510.3	0.4	0.6
消費量	493.8	502.7	510.4	0.1	1.5
輸出量	43.4	50.6	50.9	1.0	0.5
輸入量	42.4	46.5	49.7	1.1	7.0
期末在庫量	181.7	186.4	186.3	0.3	▲ 0.0
期末在庫率	36.8%	37.1%	36.5%	0.0	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 February 2022）

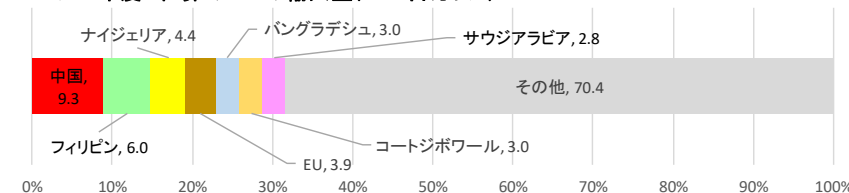
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(510.3百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(50.9百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(49.7百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 2021/22 年度の期末在庫が対前年度比で 23%以上減少の見通し

【生育・生産動向】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 15.7%減の 6.1 百万トンの見込み。収穫面積が減少したのは、ミシシッピ川下流域で作付け時期にとうもろこしと大豆の価格がより有利になると予測されたこと、カリフォルニア州で深刻な干ばつが発生したこと、南部で春先まで降雨が続き作付けが減少したことなどが要因。なお、単収は 8.64 もみトン/ヘクタールとなり史上最高。中・短粒種の生産量はコメ全体の約 25%を占める。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 4.7%減の 4.6 百万トンの見込み。

2021/22 年度の輸出量は、12 月までの輸出実績や輸出成約状況等に基づき、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比 7.4%減の 2.8 百万トンの見込み。

2021/22 年度の輸入量は、歴史的に高い運賃や世界的なコンテナ不足等の制約により、米国領プエルトリコへのタイ等からの中短粒種の輸入が遅れていることから、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比 10.2%減の 1.0 百万トンの見込み。

2021/22 年度の期末在庫量は、輸入量が下方修正された一方で、輸出量も下方修正されたことから、前月予測からわずかに上方修正され、対前年度比 23.7%減の 1.1 百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」(2022.2.11)によれば、2月8日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、碎米4%混入、国内精米)の価格は、1月11日までの週より5ドル上昇し、史上最高値となる1,205ドル/トン。2月8日までの週のイラク向け長粒種(2等、碎米4%混入)の価格については、1月11日までの週から5ドル上昇し、610ドル/トン(P19の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

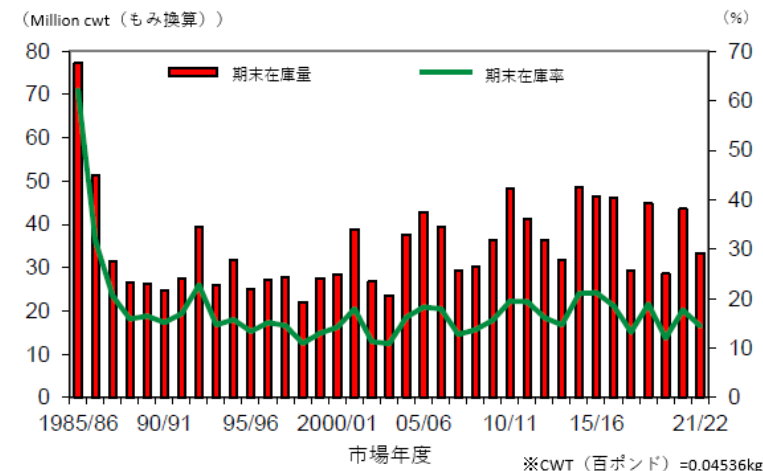
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは約 25%
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2割

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.1	-	▲ 15.7
消費量	4.6	4.9	4.6	-	▲ 4.7
輸出量	3.0	3.0	2.8	▲ 0.0	▲ 7.4
輸入量	1.2	1.1	1.0	▲ 0.0	▲ 10.2
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	0.0	▲ 23.7
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.4%	0.2	▲ 3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.64	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)

図：2021/22 年度の期末在庫が対前年度比で 23%以上減少見通し



出典：USDA Rice Outlook : February 2022(2022.2.11)

< インド > 2021/22 年度の輸出量が上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.2%増の 125.0 百万トンで史上最高の見込み。

インド農業農民福祉省の 2 月報告 (2022.2.11) によれば、例年 425 万ヘクタールほど作付されているラビ作の 2 月 11 日時点の作付済み面積は、前月時点より 211.4 万ヘクタール増加し、351.5 万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、対前年度比 3.0%増の 103.0 百万トンで史上最高の見込み。2021/22 年度の輸出量は、西アフリカ、エチオピア及びスリランカ向けの輸出が引き続き増加するとの予測により、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、対前年度比 0.8%減も 2 年連続で高水準の 20.0 百万トンの見込みで世界シェアの約 4 割を占める (右グラフ参照)。なお、2020/21 年度の輸出量は、対前年度比 62%増の 20.2 百万となり史上最高となる見込み。2021/22 年度の期末在庫量は、輸出量が上方修正されたことから前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、対前年度比 5.6%増の 38.0 百万トンで史上最高の見込み。なお、インドの期末在庫量は世界全体の約 2 割を占める見通し。

インド商務省の輸出量データによれば、2021 年 4 月～12 月の累積輸出量は 1,527.7 万トンであり、輸出量の多い国の上位はバングラデシュ (158.7 万トン)、ネパール (99.8 万トン)、ベナン (95.1 万トン) になっている。

USDA「Rice Outlook」(2022.2.11)によれば、インド産米 (碎米 5%混入) の 2 月 8 日までの週の価格は、1 月 11 日までの週より 5 ドル上昇して 350 ドル/トンとなったが、アジアの主要輸出国である、タイやベトナム産より低価格なパキスタンの同時期の同等クラスの輸出価格 355 ドル/トンと比較しても、引き続いてアジアの中で最も競争力のある価格になっている (P19 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

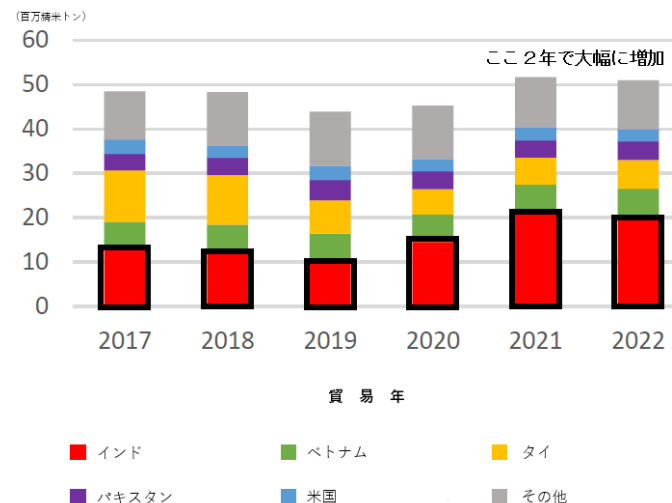
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	118.9	122.3	125.0 (124.5)	-	2.2	
消費量	102.0	100.0	103.0 (104.0)	▲ 0.5	3.0	
輸出量	12.5	20.2	20.0 (17.8)	0.8	▲ 0.8	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	33.9	36.0	38.0 (38.8)	▲ 0.3	5.6	
期末在庫率	29.6%	30.0%	30.9% (31.8%)	▲ 0.3	0.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.50 (45.75)	-	1.1	
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12 (2.72)	-	1.0	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 February 2022)

IGC「Grain Market Report」(13 January 2022) (単収は精米t/ha)

図: 世界の主要コメ輸出国のグラフ



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.2.9)

< 中国 > 2021年のコメ輸入量が史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からわずかに下方修正されたものの、対前年度比3.0%増の154.8百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比9.0%増の4.6百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の113.0百万トンの見込み。なお、中国の期末在庫量は世界の約6割を占める見通し。

中国国家糧油情報センター（2022.2.8）によれば、2021年、中国は前年比68.7%増の490万トンのコメを輸入し史上最高を記録。そのうち252万トン（約5割）を砕米が占めた。国別では、インドから109万トン（22.0%）を輸入し、初めて最大の輸入先国となった。中国のインドからの輸入は主に砕米であった。以下ベトナム（108万トン、21.7%）、パキスタン（96万トン、19.4%）、ミャンマー（80万トン、16.0%）、タイ（60万トン、12.3%）などとなり、輸入先は多様化している。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報12月号」によれば、12月、全国平均品種別買付価格は、政府備蓄用の買付と各地方政府の備蓄補充及び新穀・旧穀の入れ替え需要に支えられ、晩稲インディカもみとジャポニカもみの価格は強気に取引されたが、早稲インディカもみは晩稲に比べて人気がないことからやや下落した。一方、全国平均品種別米卸売価格は、新型コロナウイルス感染者が国内の複数個所で確認されたことで、防疫措置による外出制限からコメ市場が低迷し、インディカ米価格は若干下落したが、黒龍江省のみぞれ天候や新型コロナウイルスによる流通への影響から、ジャポニカ米価格は上昇した。2021年12月の全国平均品種別米卸売価格は、早稲インディカ米は3,780元/トン（前月より0.5%下落、晩稲インディカ米4,060元/トン（前月同）、一期作ジャポニカ米4,100元/トン（前月より2.5%上昇）になっている。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.7	148.3	149.0	(149.5)	-	0.5
消 費 量	145.2	150.3	154.8	(150.5)	▲ 0.0	3.0
輸 出 量	2.6	2.2	2.3	(2.6)	0.0	1.4
輸 入 量	2.6	4.2	4.6	(3.7)	-	9.0
期末在庫量	116.5	116.5	113.0	(109.5)	-	▲ 3.0
期末在庫率	78.8%	76.4%	71.9%	(71.6%)	▲ 0.0	▲ 4.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	29.92	(30.00)	-	▲ 0.5
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.11	(4.98)	-	1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022) (単収は精米t/ha)

写真: 黒龍江省の水稲圃場の状況



水稲圃場は越冬期に入っており、1月の平均最高気温は-12℃、平均最低気温は-20℃で、前年同期比2～3℃高い状況
1月に何回か降雪があり積雪は10～12cm程度で、4月以降の播種に向けて、全体的な土壌の水分含有量は平年並みの模様

< タイ > 2020/21 年度の輸出量が上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.3%増の 19.3 百万トンの見込み。2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 6.8%増の 18.9 百万トンの見込み。

タイ農業経済局「農業経済 2021 年 12 月号」によれば、乾季作米は 2022 年 2 月～10 月にかけて出荷される見通し。最も多く出荷されるのは 2022 年 3 月から 4 月にかけてであり、全体の出荷量の 59.1%に当たる 359.9 万トンが出荷される見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はないが、2020/21 年度の輸出量が 0.2 百万トン上方修正されたことで、対前年度比 7.3%増の 6.5 百万トンの見込み。2021/22 年度のタイは、ベトナムの輸出量(6.5 百万トン)と並び、インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。

タイ米輸出業協会の発表によれば、2021 年の輸出量が対前年比 6.7%増の 612 万トンとなった。輸出先国の上位 5 か国は、南アフリカ(77.3 万トン)、中国(63.3 万トン)、米国(57.4 万トン)、ベナン(37.4 万トン)、日本(29.2 万トン)の順。また同協会は、2022 年の輸出量目標を 700 万トンとしており、2022 年 1 月の輸出量を約 70 万トンであったと見ている。輸出に対するプラス要因として、世界経済の回復、タイの米生産量の増加、バーツが対米ドルで安定する見込みであることが挙げられている。コンテナ不足や出荷の滞留による貨物の飽和による作業スペースの狭小等の課題は残されているが、物流面の問題は改善されると見ている。

USDA「Rice Outlook」(2022.2.11)によれば、2 月 7 日までの週のタイ産米(長粒、2 等丸米)の輸出価格は、タイバーツ高を主な要因として上昇し、1 月 10 日までの週の価格より 32 ドル高い 429 ドル/トンとなっている(P19 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

コメ・タイ

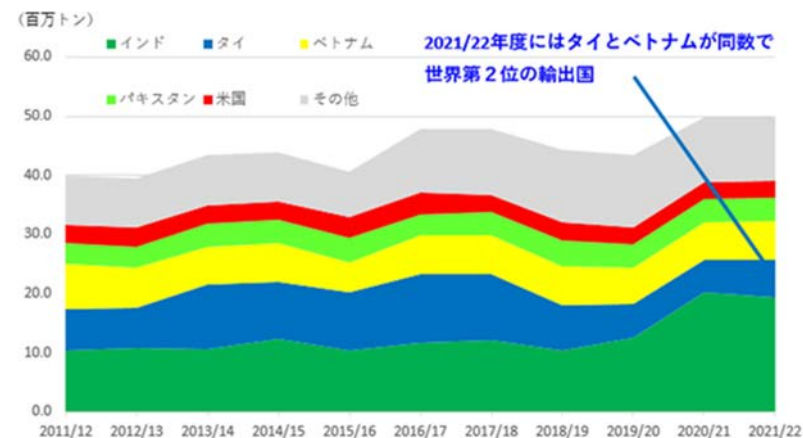
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	17.7	18.9	19.3	(19.3)	-	2.3
消費量	12.3	12.7	13.0	(11.9)	-	2.4
輸出量	5.7	6.1	6.5	(7.7)	-	7.3
輸入量	0.3	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	4.0	4.3	4.3	(6.7)	▲ 0.2	-
期末在庫率	22.1%	22.8%	21.9%	(34.0%)	▲ 0.8	▲ 0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.40	(10.40)	-	▲ 1.0
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.81	(1.86)	-	3.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2022.2.9)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2021 年の輸出量は約 627 万トンの見通し

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.1%増の 27.4 百万トンの見込み。2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.7%減の 27.2 百万トンの見込み。ベトナムの農家では、土壌の塩分濃度上昇や水の供給量の減少を理由に、コメ作から他の作物や非農業用途への転換が進んでいる。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021 年の総生産量は 43.9 百万もみトンの見込みであり、内訳は冬春作が 20.6 百万もみトン (47.0%)、夏秋作が 15.2 百万もみトン (34.6%)、ムア作(雨季作)が 8.1 百万もみトン (18.4%) になる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.7%増の 6.5 百万トンの見込み。

2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 6.3 百万トンの見込み。

2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 66.7%減の 0.6 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度にベトナムが例外的に大量のコメを輸入したことから、2021/22 年度の対前年度比は大幅に減少している。

USDA 「Rice Outlook」(2022.2.11)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の 2 月 8 日までの週の価格は、旧正月により貿易活動が活発でなかったことにより、1 月 25 日までの週より 5 ドル下落し、395 ドル/トンとなり、パーツ高により価格が上昇したタイ産米よりも安くなっている。

ベトナム税関総局によれば、2021 年 1 月～12 月の輸出量は 627.3 万(対前年比 1.5%増)トンであり、上位からフィリピン(245.5 万トン)、中国(105.9 万トン)、ガーナ(67.8 万トン)の順になっている。そのうちジャポニカ米は対前年同期比 30.9%減の 17.3 万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	27.1	27.4	27.2 (28.3)	-	▲ 0.7	
消費量	21.3	21.5	21.5 (23.1)	-	0.2	
輸出量	6.2	6.3	6.5 (6.4)	-	3.7	
輸入量	0.4	1.8	0.6 (1.0)	-	▲ 66.7	
期末在庫量	1.2	2.6	2.4 (3.1)	▲ 0.0	▲ 8.0	
期末在庫率	4.3%	9.5%	8.7% (10.4%)	▲ 0.1	▲ 0.8	

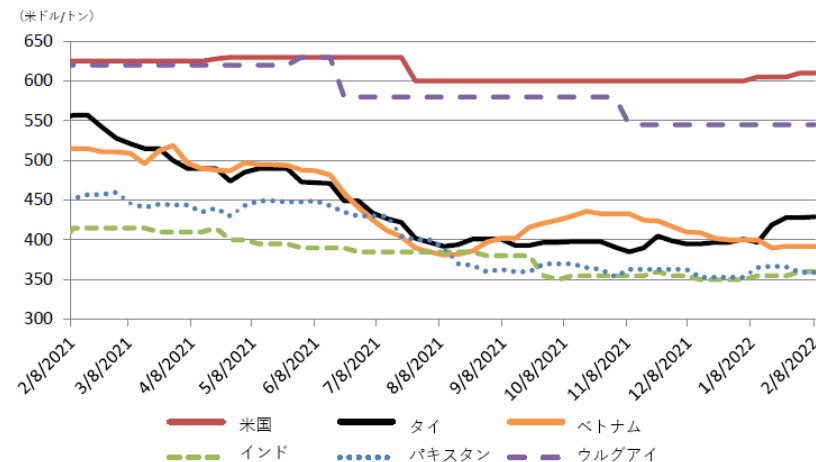
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.31	7.30 (7.45)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	6.00	5.96 (3.80)	-	▲ 0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)

IGC 「Grain Market Report」(13 January 2022) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移(ベトナム産とタイ産の価格差が拡大)



資料: USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2022.2.9)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンで下方修正され、前月から下方修正された。

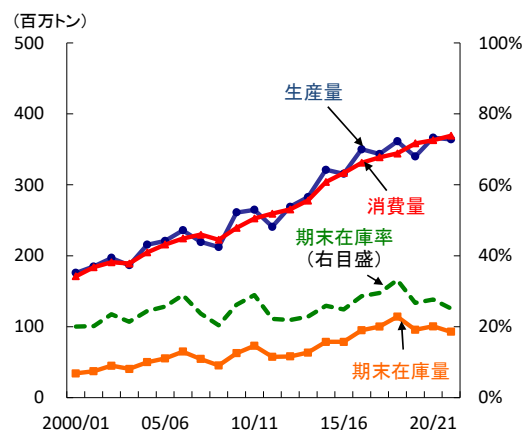
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・米国等で上方修正も、中国、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出货量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.2.9）をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

（単位：百万トン）

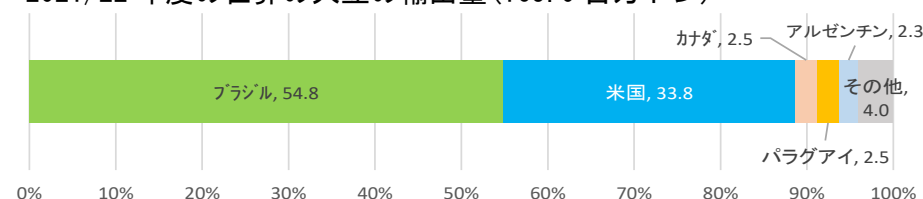
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	339.9	366.2	363.9	▲ 8.7	▲ 0.6
消費量	358.4	362.7	369.2	▲ 5.8	1.8
うち搾油用	312.4	315.3	320.2	▲ 5.5	1.6
輸 出 量	165.1	164.3	165.0	▲ 5.7	0.4
輸 入 量	165.0	165.6	162.8	▲ 5.7	▲ 1.7
期末在庫量	95.6	100.4	92.8	▲ 2.4	▲ 7.6
期末在庫率	26.7%	27.7%	25.1%	▲ 0.2	▲ 2.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 February 2022）

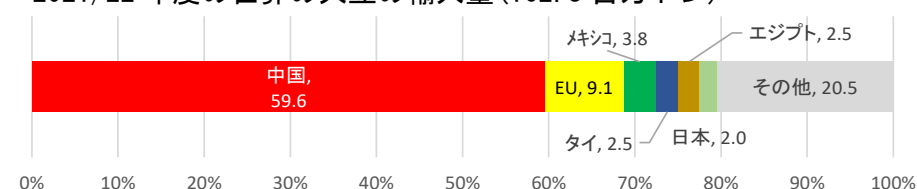
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (363.9 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出货量 (165.0 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (162.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 生産量は史上最高も、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.2%増の120.7百万トンと史上最高の見込み。なお、単収は2016/17年度に次ぐ史上第2位となっている。前年11月末時点で、収穫は例年並みのペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、米国内の良好な搾油マージンに加え、アルゼンチン、ブラジルなどの大豆粕輸出が減産の影響で減少することによる米国産の代替として大豆粕輸出需要の上方修正により搾油用需要が前月予測から0.7百万トン上方修正され、前年度より4.0%増の63.5百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より9.3%減の55.8百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高（2022年1月6日～2月3日）は、6.8百万トンであり、内訳は中国（4.0百万トン）、メキシコ（0.5百万トン）、イタリア（0.4百万トン）、ドイツ（0.2百万トン）の順。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、消費量の上方修正に伴い前月予測から0.7百万トン下方修正され、前年度より26.5%増の8.8百万トンの見込み。期末在庫率は7.4%で依然として低水準の見込み。

大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	96.7	114.8	120.7	-	5.2
消費量	61.9	61.1	63.5	0.7	4.0
うち搾油用	58.9	58.3	60.3	0.7	3.5
輸 出 量	45.7	61.5	55.8	-	▲ 9.3
輸 入 量	0.4	0.5	0.4	-	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	8.8	▲ 0.7	26.5
期末在庫率	13.3%	5.7%	7.4%	▲ 0.6	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.94	-	4.5
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.45	-	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 南部の高温・乾燥で単収下方修正、生産量は減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前年11月以降の南部産地（パラナ州、リオ・グランデ・ド・スール州等）の高温・乾燥が1月も継続した影響で生育期の大豆の単収がさらに下方修正されたことから前月予測から5.0百万トン下方修正され、前年度より2.9%減の134.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.2.10)によれば、2021/22年度の実産量は、南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け前月予測から15.0百万トン下方修正され、前年度より9.2%減の125.5百万トンの見込み。

南部では1月下旬に降雨があったものの、これまでの高温・乾燥の影響を改善するには遅すぎた。一方、2月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、この地域の生育・

収穫は順調である。最大生産州である中西部マット・グロッソ州では2月11日現在、収穫率は60%で、過去5年平均より12ポイント早い。南部のパラナ州では2月7日現在、収穫率は15%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から搾油用消費量が0.3百万トン下方修正されたものの、前年度より0.3%増の49.6百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から3.5百万トン下方修正されたものの、前年度より10.8%増の90.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1月の輸出量は245万トンで、例年より収穫が遅れた前年同期（5万トン）に比べ50倍となっている。内訳は、1位が中国で197万トン、2位がベトナムで14万トン、3位がスペインで13万トンとなっている。

大豆ーブラジル

(単位:百万トン)

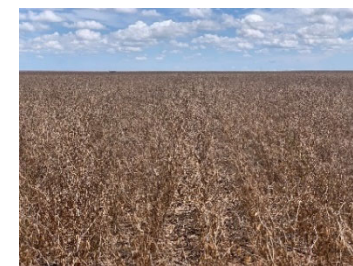
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	128.5	138.0	134.0 (137.0)	▲ 5.0	▲ 2.9	
消費量	49.4	49.4	49.6 (47.7)	▲ 0.3	0.3	
うち搾油用	46.7	46.8	46.9 (45.1)	▲ 0.3	0.3	
輸出量	92.1	81.7	90.5 (89.7)	▲ 3.5	10.8	
輸入量	0.6	1.0	0.5 (0.3)	-	▲ 55.9	
期末在庫量	20.0	28.0	22.4 (3.3)	▲ 1.2	▲ 20.0	
期末在庫率	14.1%	21.3%	16.0% (2.4%)	▲ 0.4	▲ 5.4	

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.90	38.90	40.40 (40.50)	-	3.9
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.32 (3.38)	▲ 0.12	▲ 6.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

写真: 中西部マット・グロッソ州の収穫直前的大豆圃場 (2月3日撮影)



ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2021/22年度	2021年												2022年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												作付 4.5(百万ha)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 20.9百万ha												収穫 24.4(百万t)								
大豆	マット・グロッソ州、パラナ州等												作付 16.4(百万ha)								
	作付 40.6(百万ha)												収穫 125.5(百万t)								

資料: CONAB穀物レポート (2022. 2. 10)

＜ アルゼンチン ＞ 高温・乾燥で単収下方修正、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、1月下旬は豊富な降雨があったものの、前年12月から1月までの主産地での高温・乾燥の影響で単収がさらに下方修正されたことから前月予測から1.5百万トン下方修正され、前年度より2.6%減の45.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.2.17）によれば、サンタフェ州、エントレリオス州、ブエノスアイレス州の一部で特に乾燥の影響がある。作柄は良から並みが77%で前週（83%）から悪化した。単収は過去5年平均より低い予想となっている。ラニーニャ現象に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から1.4百万トン下方修正され、前年度より0.4%減の47.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から1.1百万トン下方修正され、前年度より27.9%減の3.8百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～12月の輸出量は5.4百万トンで、主に中国向けの減少を背景に前年（6.8百万トン）より21.0%減。内訳は、1位が中国344万トン、2位がエジプト60万トン、3位が米国9万トンとなっている。前年7月26日に発令された180日間のパラナ川の渇水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%に設定し、現在も継続中。

大豆ーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.8	46.2	45.0	(44.0)	▲ 1.5	▲ 2.6
消費量	45.9	47.4	47.2	(47.3)	▲ 1.4	▲ 0.4
うち搾油用	38.8	40.2	40.0	(41.0)	▲ 1.2	▲ 0.4
輸 出 量	10.0	5.2	3.8	(5.5)	▲ 1.1	▲ 27.9
輸 入 量	4.9	4.8	3.1	(4.8)	▲ 1.4	▲ 35.7
期末在庫量	26.7	25.1	22.2	(3.9)	▲ 0.4	▲ 11.4
期末在庫率	47.7%	47.6%	43.6%	(7.4%)	1.3	▲ 4.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.20	(16.25)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	2.92	2.81	2.78	(2.71)	▲ 0.09	▲ 1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(9 February 2022)

IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

写真：北部サンタフェ州の大豆の生育風景 (1月31日撮影)

前年11月下旬に作付けされ、現在は乳熟期で
莢が着き始めている。収穫は4月中旬の予定。



< 中国 > 減産見通し、消費量・輸入量は経済成長の減速で下方修正

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収益性の高いとうもろこし等への作付けのシフトにより収穫面積が減少したことから、前年度より16.3%減の16.4百万トンの見込み。

前年11月上旬時点で、収穫は終了。

【需給動向】USDA「Oil Crops Outlook」(2022.2.11)によれば、2021/22年度の消費量は、中国の経済成長の減速により豚肉、鶏肉を中心とする国内の食肉生産量が伸びないことから飼料向けの大豆粕消費が下方修正されたことに伴い、搾油用消費量が前月予測から3.0百万トン下方修正されたものの、前年度より1.9%増の113.7百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、消費量の下方修正に伴い前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より2.8%減の97.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～12月の輸入量は96.5百万トンと、前年比で3.8%減。内訳は、ブラジル産58.2百万トン(60%)、米国産32.3百万トン(33%)。なお、2021年12月の輸入量は8.9百万トンで、前年同月(7.5百万トン)より17.8%増。うち、米国産が6.1百万トンと69%を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2021年12月号」によると、12月の国内価格(山東省の国産大豆工場渡し価格)は、国産大豆の作付面積や単収、生産量の下方修正の影響で農家の売り惜しみ心理が比較的強く、市場への供給が抑制されたことから、前月(6,440元/トン)から上昇し、6,540元/トンで高水準である。今後、国内大豆価格は農家が販売に消極的な中、政府備蓄大豆の入れ替えに伴う買入れにより価格が下支えされて、高値を維持するとみられている。12月の国際価格(山東省の輸入大豆価格)は4,320元/トンと前月(4,260元/トン)から上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

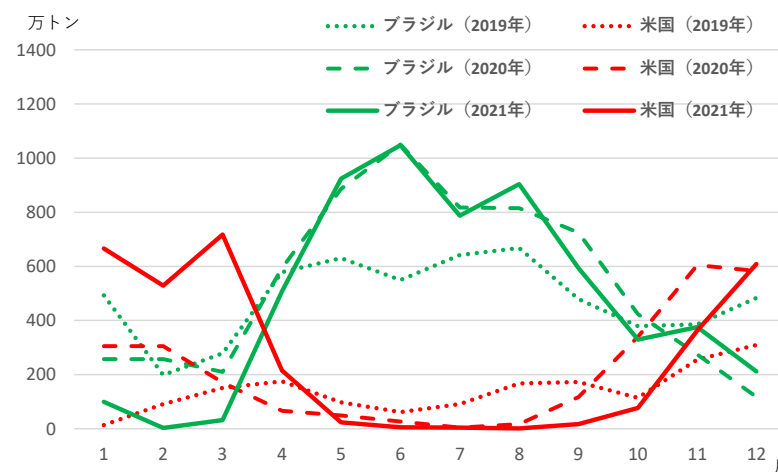
大豆—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	18.1	19.6	16.4	(16.4)	-	▲ 16.3
消 費 量	109.2	111.6	113.7	(117.7)	▲ 3.0	1.9
うち搾油用	91.5	93.0	94.0	(99.1)	▲ 3.0	1.1
輸 出 量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	-	42.9
輸 入 量	98.5	99.8	97.0	(98.5)	▲ 3.0	▲ 2.8
期末在庫量	26.8	34.5	34.1	(28.9)	-	▲ 1.2
期末在庫率	24.5%	30.9%	29.9%	(24.5%)	0.8	▲ 0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.33	9.88	8.40	(8.40)	-	▲ 15.0
単収(t/ha)	1.94	1.98	1.95	(1.95)	-	▲ 1.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2022)
IGC「Grain Market Report」(13 January 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

＜ カナダ ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。前年11月末時点で、収穫は終了。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.2.18)によれば、今後作付けされる2022/23年度の実産量は、カナダ西部では土壌水分不足の懸念や小麦等の競合作物も価格が魅力的なことから作付面積の増加は抑えられるものの、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ東部を中心に作付面積が増加し、前年度より4.4%増の6.6百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.2%減の2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.6%減の4.2百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～2021年12月の輸出量は238.6万トンで、国別では、イラン(36.9万トン)、イタリア(28.2万トン)、オランダ(22.6万トン)、アルジェリア(21.9万トン)の順。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	6.4	6.3	(6.3)	－	▲ 1.4
消 費 量	2.6	2.7	2.5	(2.5)	－	▲ 4.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.8	(1.8)	－	6.6
輸 出 量	3.9	4.5	4.2	(4.0)	－	▲ 7.6
輸 入 量	0.3	0.5	0.5	(0.4)	－	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.3	0.3	(0.5)	－	8.2
期末在庫率	9.6%	4.1%	4.7%	(6.9%)	－	0.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.13	(2.14)	－	4.4
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.94	(2.93)	－	▲ 5.8

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 February 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 February 2022)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)